

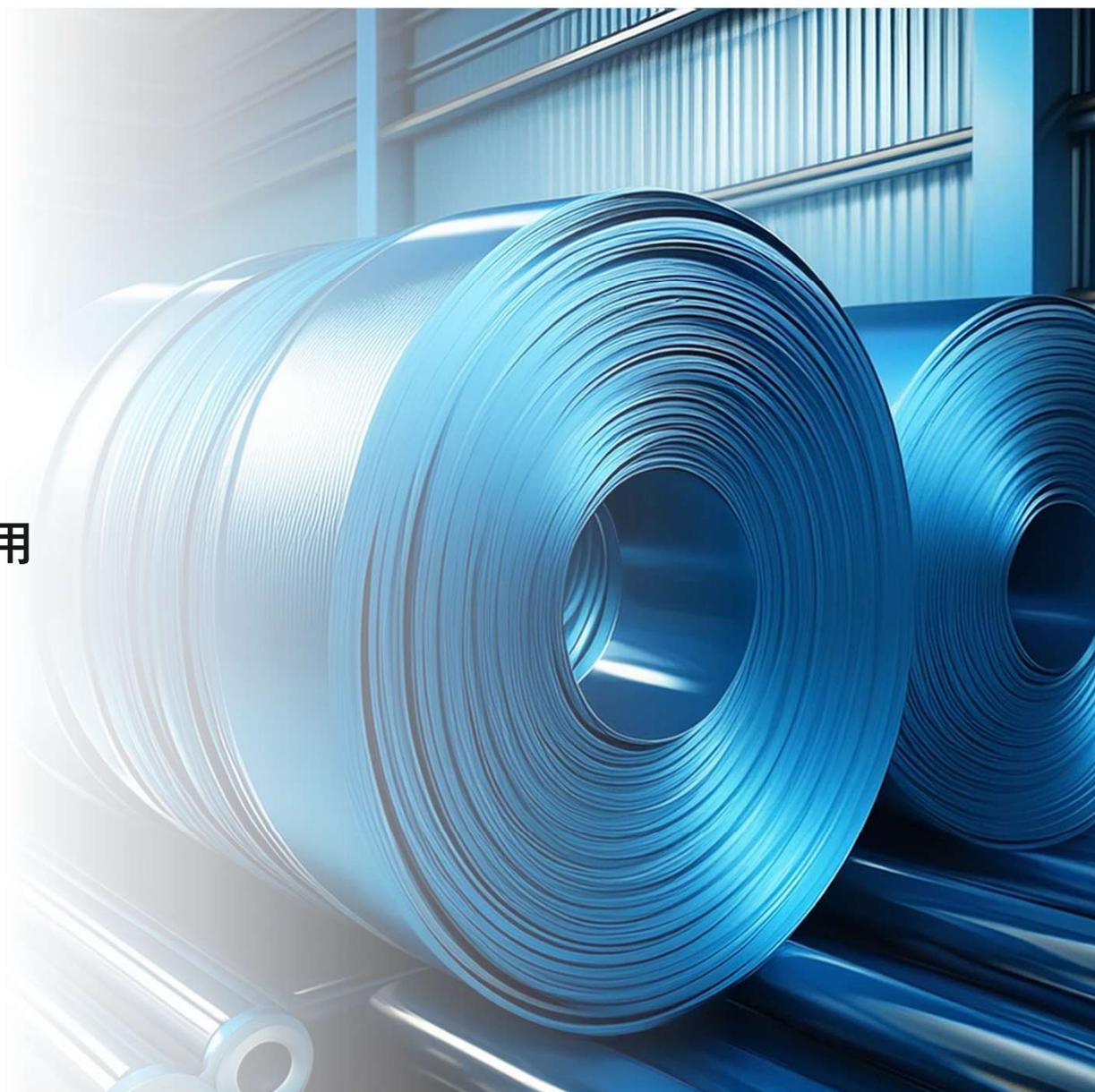


カケフグループ°DX戦略

2026年2月6日

株式会社カケフホールディングス
代表取締役社長 掛布 拓雄

1. ビジョン
2. DX戦略概要
3. DX推進体制
4. 人財育成および文化形成
5. ITシステム・デジタル技術の活用
6. 情報セキュリティ体制
7. 成果指標(KPI)
8. 今後のDX推進について
9. 各社DX戦略



はじめに

「DXorDie」とも言われるように、DXを推進できるかどうか、企業が生き残るための鍵となります。

IT業界であろうがなかろうが、業界を問わず、ビッグデータやAIといったデジタル技術革新、第四次産業革命の影響を、避けることはできません。

今後、新たなデジタル技術を駆使する企業が選ばれて生き残る一方、DXを推進できない企業の競争力は低下し、衰退していくとされています。

そうは言うものの、我々が関係する製造業界ではどうなのでしょう、建築業界ではどうなのでしょう。我々が認識している状況は、データと合っているのでしょうか。

取り組むべき課題には何があり、どのような戦略や解決策が必要なのでしょうか。

今後ますます変化が激しく、将来の予測が困難で、不確実なVUCAの時代の中、カケフグループにおいては、定性的ではなく数字で議論するためにデータを活用したり、分からないことへの理解、課題の発見や解決に、DXを活用します。

そして、業務の効率化や省力化だけを目指すのではなく、業務、事業、企業の質を変化させることで、既存ビジネスの付加価値向上や、新たなビジネスの創出を行っていく。その活動を、カケフグループにおけるDXと定義します。

株式会社カケフホールディングス 代表取締役社長 掛布 拓雄

経営ビジョンとの連動

MISSION 経営理念

鉄の新しい需要と高付加価値を創造し、
社会の発展に貢献する。

お客様の課題解決を通じて信頼関係を構築し、
共に永続的繁栄を目指す。

社員の幸福を追求し、広く社会に感謝され、
成長し続ける人材を育成する。

特に、赤字部分の実現のため、
DXを推進します。

VISION

鉄に生き、人々に笑顔を

私たちはこれまで「鉄事業」を心柱に、複数の強く太い事業の柱を構築してまいりました。これからは鉄にこだわり、鉄の多様な可能性を追求し、「多柱経営」を推進してまいります。

そして、経営理念に掲げられた不変の使命を果たすため、不易流行を念頭に「変革と創造」を絶え間なく続け、地域になくしてはならない、唯一無二の「永続成長企業」を目指します。

「企業は社会の財産」。社会との積極的な対話を通じ、期待や要請を的確に捉え、笑顔あふれる豊かな社会、明るい未来づくりに貢献してまいります。

それが私たちの「志事」です。

3大テーマへの取り組み

組織づくり

推進プロジェクト活動

外部人財・企業との連携

経営者の参画

デジタル人財の育成・確保

デジタル・リテラシー向上

関連資格の取得推進

取り組み内容の発信・共有

ITシステム・サイバーセキュリティ

情報セキュリティ体制の構築

システムの導入・見直し

取り組み内容の発信・共有

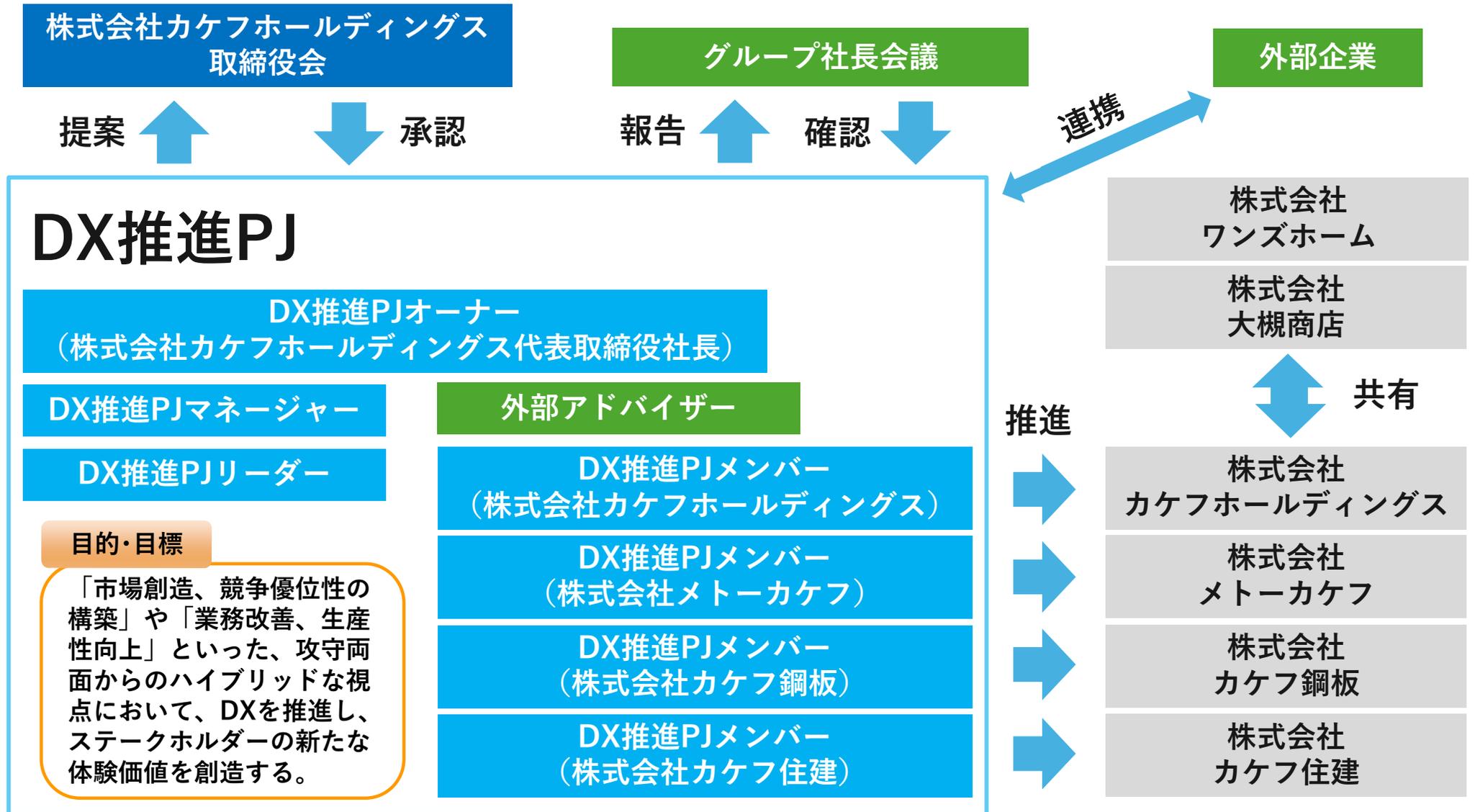
3. DX推進体制

組織づくり

推進プロジェクト活動

外部人財・企業との連携

経営者の参画



4. 人財育成および文化形成

デジタル人財の育成・確保

デジタル・リテラシー向上

DX推進PJ

- ・活動を通じた知識の向上
- ・外部アドバイザーによるデジタルリテラシー向上のための教育
- ・外部企業との連携（意見交換、相互研修の実施）

グループ各社

- ・DX推進PJおよび他社活動内容の活用

関連資格の取得推進

グループ全体

- ・デジタル関連資格の取得祝金の拡充
- ・外部研修の活用（オール岐阜DX研修）

グループ各社

- ・個人の学びの内容の発信、相互活性化

取り組み内容の発信・共有

DX推進PJ

- ・活動を通じて得た知識の発信
- ・活動状況を常に全社へ開示

グループ各社

- ・各社における活動を通じて得た知識の発信
- ・活動状況を全社へ共有

5. ITシステム・デジタル技術の活用

ITシステム・サイバーセキュリティ

情報セキュリティ体制の構築

システムの導入・見直し

取り組み内容の発信・共有

グループ全体

- ・ DXへの投資予算の確保
- ・ 人的資本経営推進のため、HRツールを導入
- ・ Well-being向上のため、エンゲージメントサーベイシステムを導入
- ・ ローコード／ノーコードアプリ開発ツールの活用による業務改善
- ・ クラウド型経費精算システムの活用による業務効率化

DX推進PJ

- ・ コミュニケーション基盤の構築、データやナレッジの全社横断での活用による、業務、事業、企業の質的変革を目的とし、業務チャットツールを導入

グループ各社

- ・ 社内PJの推進(業務DX、営業DX、物流DX、システム導入、見直し、開発および改修)

DX推進PJ

- ・ 活動を通じて得た知識の発信
- ・ 活動状況を常に全社へ開示

グループ各社

- ・ 各社における活動を通じて得た知識の発信
- ・ 活動状況を全社へ共有

6. 情報セキュリティ体制

ITシステム・サイバーセキュリティ

情報セキュリティ体制の構築

DX推進PJ

- ・ 情報セキュリティ対策状況の調査および評価の実施
- ・ 情報セキュリティ基本方針の策定および公表
- ・ 情報セキュリティ管理規程の策定

グループ各社

- ・ 情報セキュリティ自己診断および情報セキュリティ教育の実施

システムの導入・見直し

グループ全体

- ・ DXへの投資予算の確保

DX推進PJ

- ・ 情報資産管理ツールの導入によるセキュリティ体制強化

グループ各社

- ・ 各社における調査や検討、グループ全体への提案の実施

取り組み内容の発信・共有

DX推進PJ

- ・ 活動を通じて得た知識の発信
- ・ 活動状況を常に全社へ開示

グループ各社

- ・ 各社における活動を通じて得た知識の発信
- ・ 活動状況を全社へ共有

7. 成果目標(KPI)

DX戦略の達成状況に係る指標(KPI)

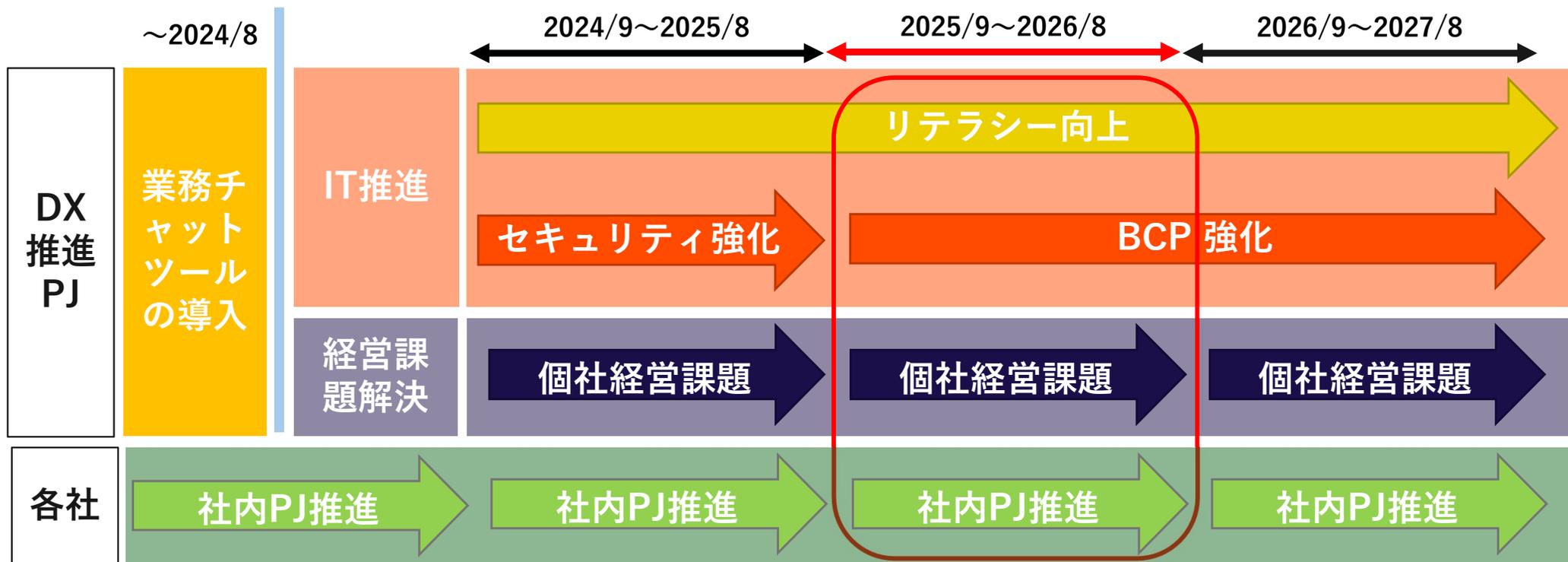
DXの取組みを、「既存事業の深耕・進化」「新規事業の創出」「経営基盤の強化」「DX人財の育成」という4つのテーマで分類し、それぞれに指標を設けて課題解決を推進します。

指標(KPI)	具体例	目標値
既存事業の深耕・進化のためのDX案件数	営業DX、カスタマーサクセスの充実、品質向上	1件/年
新規事業の創出のためのDX案件数	新たな価値、ソリューションの創造	1件/年
経営基盤の強化のためのDX案件数	業務DX、ガバナンス強化、BCP強化	1件/年
DX人財の新規育成	DX推進PJへの参加、各社内PJへの参加、関連資格の取得	5名/年

8. 今後のDX推進について

DX推進活動方針

DX推進PJは、「リテラシー向上」「BCP強化」「個社経営課題の解決支援」に取り組みます。また、各社においては、DX推進PJとも連携を図りつつ、社内PJを推進します。



9. 各社DX戦略(カケフ住建)



当社は、鉄製品に関する設計～生産～納品の一貫プロセスにおいて、データとデジタル技術を活用し、原価・品質・納期の最適化と顧客価値の最大化を実現する新たなビジネスモデルへの転換を進める。

事業概要

住宅から非住宅まで、鉄関連のオリジナル製品を一貫対応

- ・ 建築工法販売
- ・ ソーラー架台
- ・ 多種多様なニーズへの対応
- ・ 高品質&短納期&柔軟な生産

2026年8月期

【営業DX】
CRM/SFA運用開始
大口顧客分析の仕組み構築

【業務DX】
原価集計仕組み構築・原価差異分析開始

【品質DX】
品質データ標準化に向けた整理・検討

【人財育成】
2名育成(PJ参加・研修・資格取得)

DXで解決したい課題

【営業DX】
大口顧客・新規顧客創出の強化

【業務DX】
原価管理属人化・非効率な実績集計

【組織DX】
情報共有の最適化

進行中・計画中のDX施策

【営業DX】
CRM/SFA導入

【業務DX】
原価管理基盤の構築

【組織DX】
情報共有の最適化

【品質DX】
品質データの標準化

データ活用テーマ

顧客データ×営業戦略最適化

原価データ×予実管理の精緻化

製造・施工データ×工期予測/品質向上

業務/情報データ×生産性向上

2026年1月にカケフ住建経営層の承認受け

9. 各社DX戦略(メトローカケフ)



セキュリティ対策自己宣言

当社は、鋼板製屋根材・壁材の製造～施工の一貫プロセスにおいて、生産・受注・品質データを活用し、納期精度・品質安定性・業務効率を高める「データ駆動型ものづくり」への転換を進める。

事業概要

鋼板製屋根材・壁材の製造・販売・施工。

耐久性・デザイン性に優れたラインナップと、断熱・遮音・防露に対応する高機能設備を保有。

2026年8月期

【業務DX】

RPA・VBAの活用による全体業務効率の向上(目安10%)

【品質DX】

品質クレーム再発率低減(目安20~30%)

【営業DX】

CRM/SFA運用開始

【人財育成】

2名育成(PJ参加・研修・資格取得)

進行中・計画中のDX施策

【営業DX】

CRM/SFA導入

【業務DX】

受注管理の標準化・RPA活用

【組織DX】

情報共有の最適化

【製造DX】

品質情報共有の仕組みづくり
生産スケジュールの一元化

DXで解決したい課題

部署横断の生産スケジュールが共有できず、納期調整が属人化

受注管理業務が煩雑化し、短納期対応が逼迫

品質管理の情報共有が不十分

データ活用テーマ

生産データ×計画精度向上

受注データ×工数削減

品質データ×再発防止

業務データ×部署連携最適化

2025年12月にメトローカケフ経営層の承認受け

9. 各社DX戦略(カケフ鋼板)



セキュリティ対策自己宣言

当社は、鋼板加工における設計～生産～品質検査の一貫プロセスにおいて、生産・品質・技術情報をデジタルで統合し、品質安定性・安全性・業務効率を高める「データ駆動型生産体制」への転換を進める。

事業概要

カラー鋼板・表面処理鋼板・アルミ板などノンオイル材の加工に特化したコイルセンター

家電、ガス器具、住宅メーカー等へ高品質製品を供給

環境負荷低減にも配慮

進行中・計画中のDX施策

【営業DX】

日報(kintone)による各種分析
「意思決定を加速させるデータ基盤」とし最適DXへ進化

【業務・教育DX】

技術判断基準のDB・動画教材化
RPAによる業務自動化

【組織DX】

情報共有の最適化

【品質DX】

品質情報共有の仕組み整備

2026年8月期

【営業DX】

日報(kintone)による行動・失注分析

【業務・教育DX】

自動化で定型作業の業務時間削減
熟練作業のデジタル教材化

【品質DX】 品質判断基準(検査基準)のデジタル化・共有の仕組み構築

【人財育成】

2名育成(PJ参加・研修・資格取得)

DXで解決したい課題

【技術伝承】

経験依存判断の属人化解消

【業務効率・安全性】

生産管理と製造の情報連携

【生産管理の標準化】

属人化の解消

データ活用テーマ

品質データ×再発防止

技術データ×技能伝承

生産データ×計画精度向上

業務データ×保全性向上

営業/受注データ×効率化

2026年2月にカケフ鋼板経営層の承認受け

100年続く企業を目指すのではなく 100回変わる企業を目指す

